

教育同窓会 会報

- ・ 教育学部
- ・ 人間社会学域
学校教育学類
- ・ 大学院教職実践研究科
- ・ 養護教諭特別別科

発行：金沢大学 教育同窓会事務局

第 8 号 2018.3.22



「大学院教職実践研究科
(教職大学院)について」

大学院教職実践研究科長
田邊 俊治

■ 新たな独立大学院としての発足

教職大学院は、高度専門職業人を養成する「専門職大学院」の一つであり、教員養成の高度化を目指す大学院です。平成20年の制度導入以来、おおよそ10年経ちますが、この1～2年の間に多くの国立大学で新設が進められてきたことにより、現在では、ほぼすべての都道府県に設置されています。

金沢大学でも教職大学院として、大学院教職実践研究科を平成28年度に新設しました。まだ発足して間もないこともあり、「教職員大学院」とか「教育実践研究科」などと間違った呼び方をされることも少なくありません。また、従前の大学院教育学研究科の改組によって再編発足したと思われがちですが、教職大学院は学類（学士課程）とは組織上明確な独立性を確保する制度趣旨のために、教職大学院の教員は原則として学類講義は担当しない大学院専任体制です。

■ 理論と実践の往還

教職大学院のコンセプトとして「理論と実践の往還」を謳っています。教職大学院での学びを通して、教育実践を支える確かな教育理論を修得し、理論の裏づけによる優れた教育を実践できる教員モデルの実現です。アカデミックに傾斜してきたこれまでの大学院教育に比して、アカデミックな思考を柔軟に応用展開できる実践力の育成に軸足を置いています。

このような趣旨を実現するために、教員組織の面で、教職大学院では専任教員のうちに高度な実務能力を備えた「実務家教員」を4割以上配置する制度設計になっています。研究キャリアのある「研究者教員」と、実践力に優れた「実務家教員」がどの授業科目でも複数で共同担当するなど、理論と実践の融合を徹底しています。

教職大学院カリキュラムは共通科目や総合科目、学校実習科目などから構成されますが、特筆される

特徴としては、共通科目の5領域設定と学校実習時数の多さ、さらには事例研究や授業観察・分析、フィールドワークなどの指導方法を挙げることができます。共通科目は、「教育課程の編成・実施」「生徒指導、教育相談」「学級経営、学校経営」などの指定5領域に沿った科目編成、また学校実習は2年次に連携協力校で1年間通年実施します。

■ 教職実践知の交流から共創へ

本学の教職大学院は、石川県の教育特性や教育課題を踏まえた上で、学校教育に関する高度の学識と実践的指導力を備えた教員養成を目的に、「学習デザインコース」と「学校マネジメントコース」の2コースがあります。

学習デザインコースは、現職教員および学卒生が対象のコースで、子どもたちの主体的・能動的な学習をデザインし実践する、リーダー的な役割を發揮できる「新採教員や若手・中堅教員」の育成を目指します。

学校マネジメントコースは、現職教員対象のコースで、学校の組織的な実践を推進し、地域や家庭との連携関係を構築できる「中核的教員」の育成を目指します。

大学院の学生定員は1学年15名、内訳は現職教員の派遣院生が10名、残り5名が学卒院生です。このため、教職経験知の有無など実績面で開きのある学生が混在する点、さらに幼稚園から高校や特別支援学校まで学校文化の異なる校種の現職教員が混在する点も、際立った特徴といえます。共通科目をはじめ大半の授業科目を院生15名が一緒に履修するため、一人ひとりの異なる教職経験が逆に、多くの気づきや探求・協働を自生的に促していく触媒となり、複眼的な思考力を備えたプロフェッショナル教員への錬成の場となりえています。

この3月には第1期生15名全員が「教職修士（専門職）」の学位を手に修了できました。教職大学院は県内の教育委員会や学校機関との協働・連携を重要なファクターとしています。複雑化・多様化する教育課題に迫る研究開発、イノベーション力のある教員の輩出、教員研修の支援など、教職実践知を共創する拠点としての実績を積み上げていく所存です。皆様のご支援を何卒よろしく申し上げます。

シリーズ 大学を訪ねて⑤

金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属中学校

副校長 端崎 圭一



本校は、昭和24年4月、新制大学発足に伴い石川師範学校男子部附属中学校、同女子部附属中学校、石川青年師範附属中学校を統合し「石川師範学校附属中学校」として広坂の地に開校しました。その後、「金沢大学石川師範学校附属中学校」「金沢大学教育学部附属中学校」と2度の改称を経て、平成7年9月、今の平和町キャンパスに移転しました。平成20年には、金沢大学の改組により現在の「金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校」という名称に変更となり、来年度で創立70周年を迎える運びとなっています。



本校では、グローバル化が加速する中、多様な考え方や価値観を持った他者と協働して複雑な状況に柔軟に対応しつつ、適切なリーダーシップをとることができる優れた人材を育成すべく、『自由闊達な気風の中で、広い視野と豊かな人間性を持ち、将来、社会的使命を果たす生徒を育成する』という教育方針を掲げて日々の教育活動に取り組んでいます。

ご存知のように、附属学校園には二つの大切なミッションがあります。一つ目のミッションは、教育の理論及び実践に関する研究並びにその実証を行うことです。これまでも様々な研究テーマの下、先導的な取り組みに励んできましたが、平成24年度からは、国立教育政策研究所の教育課程研究指定を積極的に受けて研究を進めてきています。まず、平成24・25年度には教科に係る研究から着手しました。平成26・27年度には、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育として「ESD (Education for Sustainable Development)」に取り組みました。50件に及ぶ授業実践に取り組みながら、それらを教科間のつながりを示すカリキュラムマップに落とし込む作業を行いました。新学習指導要領の改訂では、各学校におけるカリキュラム・マネジメン

トの確立をするように謳われていますが、この作業がカリキュラム・マネジメントにも極めて有効であることを示すことができました。成果として、この取り組みは、文科省初等中等教育局教育課程課が主管する『中等教育資料』の特集「ESDの今後の展望」の中で「ESDを踏まえた教科教育」として紹介されました。平成29年度からは「伝統文化教育」に取り組んでいます。これからのグローバル社会に生きるために必要な資質・能力の育成を、一見対極にあるように思える「伝統文化教育」を通して行うという新たな試みです。

以上の研究は、学校教育学類の先生方に理論的な助言を求めながら進めています。また、昨年度から発足した教職大学院の先生方にも研究授業や授業整理会への参加を依頼し、助言をもらうことによって授業改善を図っています。

二つ目のミッションは学類生の教育実習を行うことです。教育実習は主に9月に実施し毎年約60人の教員の卵が教科指導や生徒指導等について学びます。学類生の教師になりたいという意欲を高め、彼らに教師になるための資質・能力をしっかりとつけさせていくように、全教職員が一丸となって指導に努めています。また、教職大学院との連携強化を進めてきており、現職教員を含む大学院生が「学校実習」の現場として、年間を通して継続的に授業参観、授業実践、マネジメントに関する議論を行っています。

本校の特色ある活動を幾つか挙げますと、まず、初夏に開催される合唱コンクールがあります。コンクールでは、全校生徒の投票で決まる「柏賞」を目指し各クラスが歌声を競い合います。秋には柏樹タイム発表会（旧文化祭）があります。特に3年生のクラス劇はクラスの団結と全員参加の目標を掲げて行われ、演技・道具・照明・効果音等全てを生徒が手掛ける総合芸術活動です。また、特色ある部活動として硬式テニス部があります。平和町に移転した際に軟式テニス部から変わったものです。人工芝のコートが3面完備している恵まれた環境で生徒たちは生き生きと活動しており、男女とも全国大会に数度出場する好成績を挙げています。

最後になりますが、平成29年8月末に文科省からいわゆる「有識者会議報告書」が出されました。その中で、附属学校の在り方や役割の見直し、大学や地域との連携強化、研究・実践成果の還元が改めて問われています。本校では、これまでの取り組みを踏まえ、この報告書に示された改革に取り組んでいこうと考えています。

～絆 いつまでも～ 教育学部体育科特別体育科17期同期会

平成29年10月31日(火) 滋賀県長浜市「豊公荘」

「2年後、浜松で会おう」の合言葉で、我々17期体育科特別体育科同期会「長浜大会」を打ち上げました。昨年10月31日のことです。

昭和44(1969)年3月に卒業し、平成19年3月に退職となりました。翌年3月22日、懐かしの金沢で恩師の宮口尚義先生をお招きしての第1回。大きな区切りが付き、安堵感に満ちた表情であったことが印象にあります。第2回は平成24年に岐阜県郡上八幡市の大農家である石神氏宅で15名の参加でした。

今回は第3回になります。

同期会会員35名(内2名他界)のうち、20名の参加でした。無論、ほとんどが教職に携わってきた面々ですが、事業で頑張ってきた人もいます。今回が初参加ということで、懐かしさが込み上げた友もいました。友とはありがたいもので、長年会っていないなくてもすぐ学生時代の調子で交流でき、長浜大会もとても盛り上がりました。学生時代の懐かしい話は無論のこと、一人ひとりが近況発表などをし、尽きない夜を過ごしました。各々が教育の分野をリードしてきた方々ばかりであり、誇らしさを感じた次第です。互いに健康であることを確かめ合う、少し遅めの古希の集いのようなでもありました。

我々体育科は授業での実技はもちろん、スキー(志賀高原)、スケート(軽井沢)、登山(立山)、水泳(金大プールでの競泳、海での実習)など、約1週間の実習で培われた友情は、他の専攻とは違うものがあるように思います。

また、これは卒業後の感想になりますが、金沢大学教育学部体育専門課程のカリキュラムは『すごかった』のひと言です。体操全種目、陸上競技全種目、球技全般、柔道は初段取得、剣道、選択でダンス、それに上記の実習と、あらゆるスポーツ教材などで修得(種目ごとの試験で合格点)が求められました。さすがに相撲の授業はありませんでした。日本、いや世界でもこのようなマルチな体育教師養成を求めている大学はないのではないかと思います。



金沢大学教育学部体育科特別体育科 第17期生 同窓会
平成29年10月31日 於 豊公荘(長浜市)

特に、2年生時の若狭高浜での水泳実習。4種目400mのマスターと2時間超の遠泳は、我々としては初めての合宿でした。みんなで声を掛け合い頑張ったことが、今日の絆の発端になったように思います。3年時の陸上の授業で、宮守坂(現 玉泉院丸庭園より城内への坂)でのダッシュ(約50m)50本、達成感で満たされました。石田保之先生の鉄棒では、鉄棒(体操)の1時間目は大振り(大車輪への技)の練習から入ったように思います。妥協なしの試験が印象にあります。それだけに専門に対する力もつき、「自信」になったものと思います。

4年時は教育実習に卒論と就職活動、卒業ロード(男15km・女10km)、それに課外活動(野球部)と、息つく暇なしの濃い1年間でした。それに、私的には寮(泉学寮)生活で旧制四高の伝統が息づく貴重な体験をしたり、そこでたくさんの友もできたりして、厚みのある青年時代を過ごせたと思っています。

厳しくも楽しく頑張れたのは、体育科の先生方や諸先輩、それに素晴らしい同期生に恵まれていたからに他なりません。現在の同課程はカリキュラムも違うし、少人数だそうで心なしか寂しさを感じます。金沢大学の「元気印」、体育科特別体育科17期生の絆はいつまでも続きます。終わりに、我が金沢大学が今後もますます発展されんことをお祈りしています。

(文責 鳥越善次郎)

☆☆☆学友支援室からのお知らせ☆☆☆

平成30年の第12回ホームカミングデイは、10月27日（土）に開催！
卒業生・修了生の皆様、久しぶりに青春の学舎に寄りませんか！

昨年（平成29年）の第11回は、平成29年10月28日（土）、本学角間キャンパスにおいて、午前中はキャンパス見学会、午後は、歓迎式典、特別講演会、懇親交流会を開催しました。キャンパス見学会には86名、歓迎式典には191名、懇親交流会には161名の卒業生およびそのご家族等にご出席いただき、大変賑やかな1日になりました。歓迎式典では、山崎光悦学長による歓迎挨拶、山出 保 金沢大学学友会会長の祝辞、柴田 正良 理事・副学長による金沢大学の近況報告、そして今回初めての、日本人学生（2名）による留学体験報告が披露されました。

特別講演では、医薬保健研究域保健学系教授 稲垣 美智子氏（昭和51年医療技術短期大学部卒業）に、「現代における健康、そして保健学」と題し、健康的に過ごす生活は、三大要素（睡眠、運動、食事）を摂り、健康寿命を達成し、ほどよい老化（ユーモアも必要）の目標を達成することが大切であると話されました。

夕刻から開始した懇親交流会では、山出学友会会長の発声で乾杯しスタートしました。乾杯は、金沢大学生協オリジナルの日本酒で行われました。会場では、本学フィルハーモニー管弦楽団の演奏及びJ.M.S（ジャグリング・アンド・マジックサークル）の演技があり、懇親交流会を盛り上げていただきました。その後、恒例の揃いの法被に身を包んだ卒業生有志による四高寮歌「北の都」「南下軍」の高唱もあり、最後は全員で「校歌」を歌い上げ、懇親交流会は大いに盛り上がりました。

次回、第12回金沢大学ホームカミングデイは、平成30年10月27日（土）に開催します。この前後に同期生やサークル仲間のみなさまとの同窓会の開催をご計画いただき、懐かしい母校にぜひお越しください。

○金沢大学学友支援室Webサイト（ホームカミングデイの情報も掲載）

http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakuyu/index.html

○学友支援ニュース・レター（学友支援室Webサイト内にPDF版を掲載）

同窓会の開催予定や報告、本学の行事・イベント等をご紹介します。

教育同窓会 会計決算報告 (H28年度)

平成28年度 金沢大学教育同窓会 会計決算報告 (H28.4～29.3)

【収入】

項目	金額(円)	備考
1 繰越金	1,362,530	
2 会費	1,551,110	28年度入学生78名(振込手数料込み)
3 利子	265	
合計	2,913,905	

【支出】

項目	金額(円)	備考
1 会議費	0	
2 通信費	21,489	住所変更郵送料金後納郵便料 事務連絡費
3 事務用品費	1,067	印刷用紙 封筒など
4 分担金	0	
5 印刷送付費	1,089,844	会報No.7・封筒印刷・会報発送、振込手数料
6 慶祝費	154,000	28年度卒業祝 図書カード(1,000円×154人)
7 その他	6,000	会報原稿執筆謝礼
合計	1,272,400	

収入総額 2,913,905 - 支出総額 1,272,400 = 1,641,505
【差引残高】 1,641,505円は29年度事業に繰り越し

★臨時同窓会費(一口1,000円)にご協力ください★

【ゆうちょ銀行】 振替番号:00710-9-100435

加入者名:金沢大学教育同窓会

同窓会名簿の維持と会報発行事業のためお願いします

★同窓会情報をお寄せください★

同期会や研究室の同窓会などの開催予定や開催報告を、同封の返信用はがきで事務局までご一報ください。(情報をお知りの方、どなたでも構いません。会報に同窓会情報として掲載しますので、簡単な内容をご連絡ください)また、同窓会を開催するために、名簿などの情報が必要でしたら、事務局までお問い合わせ下さい。

【事務局】 〒920-1192 金沢市角間町

金沢大学事務局 学友支援室

TEL 076-264-5081

gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp

編集後記

ここ数年、大学の学位記伝達式に出席させて戴いています。学校教育学類の卒業生は毎年100人程で、私達の頃に比べると半分以下になりましたが、新しい道に向かう若者の熱気は全く変わっていませんでした。学校現場では指導内容が増えたり働く環境が複雑化したりする状況があります。金沢大学の誇りを持って頑張れと願うばかりです。
(副会長 澤野)